

【代表挨拶】

一般社団法人ももの活動を応援し支えてくださっているすべての方々に心から感謝申し上げます。

不登校のこどもたちに向けた居場所づくりから始まった当法人には、発達障害や経済的困窮、ヤングケアラーや精神疾患、ステップファミリーなど様々な背景に育つこどもたちが集まるようになりました。教育支援に加え、今では食や生活などの暮らし支援、個別相談や訪問・同行などの相談支援など包括的なこども若者支援に取り組んでいます。それらはこどもたちと出会う中で感じる必要性から生まれた取り組みがほとんどです。

私たちは、どんな背景に生まれ育つこども若者も豊かな社会資源にアクセスする事ができる「小規模多機能コミュニティ」の創造を目指しています。少人数でほっとできる家庭的なあたたかい場を。ごはんを食べるついでに相談ができるソーシャルワークハウスを。五教科にとどまらない自由で多様な学びの場を。若者が地域住民と取り組むチャレンジの場を。こども若者とおとなが一緒になって創り出す、そんな情景を目指しています。

こどもたち一人ひとりが持つ力って本当にすごいと感じさせられることばかりです。そしていつも地域の方々に支えていただき、私たちだけではできなかったようなことを実現していくことができてきました。現在、40名を超えるスタッフやボランティアの方々に参画いただいています。本当にありがとうございます。

これからもすべてのこども若者が安心して力を発揮できる地域のプラットフォームをつくるために邁進してまいりますので、どうぞよろしく願いいたします。

代表理事 伊澤 貴大
共同創設者 伊澤 絵理子

【団体について】

- ・ビジョン：生まれ育つ環境に左右されず自分の未来に希望が持てる社会を目指しています。
- ・ミッション：こども・若者が安心して力を発揮できる地域のプラットフォームをつくることです。

【事業の目的】

不登校や不登校経験者など生きづらさを抱えるこども・若者や学校・家庭以外の居場所を必要とする人に対して、地域で居場所支援・学習支援・暮らし支援・相談支援などを行い、社会的自立に寄与します。こども・若者が経済的なハードルを越えて地域資源を最大限有効活用できることを目指します。

【活動実施回数及び延べ利用者数】

のべ 442回実施

のべ 2412名利用

【アンケート結果】

93.3% … 弊団体を利用して前向きな変化があったと思う

90% … 自分の気持ちや考え、好きなことを話す・表現する機会は増えている。

「周りに言っても理解してもらえなかったことが理解されたのは初めてでした。」

(アンケートより抜粋)

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の数	受益対象者の範囲と人数
居場所づくり支援事業	学校に行きにくい、またはその傾向のある10代から20代前半の子ども若者が集うコミュニケーションの場。	毎週金曜日 14時～16時 毎週月曜日 16時半～18時半 (11月以降) 年間開催回数 67回	まなびやもも	4名	こども若者 316名
	学校に行きにくい、またはその傾向のある10代から20代前半の子ども若者が夕方以降集う居場所。	毎週木曜日 17時～20時半 年間開催回数 48回	まなびやもも もものバー	2～3名	144名
教育支援事業	学習支援教室	毎週火曜日 17時～19時15分 年間開催 53回	まなびやもも	3名	256名
	ももカレッジ・文化芸術ゼミ	2か月に1回開催		2名	55名

暮らし支援事業	「りこのキッチン」 ※居場所の元利用者である若者が、自分の得意なことをいかして、子どもたちに「ごはんあるよ。いつでもおいで。」を合言葉に居場所をつくりたいという思いから立ち上げた子ども食堂。	毎月土曜日に1～2回開催 年間開催回数22回	太田南コミュニティセンター	30名	子育て世帯などのこどもと家族 990名
	フードパントリー	りこのキッチンと同時開催、 加えて2023年1月より毎週火曜日に開催	太田南コミュニティセンター まなびやもも	1-3名	ひとり親家庭や困窮状態にあるご家庭 220世帯
	支援物資のお届け	毎月1回程度 年間回数12回	郵送、訪問	2名	60名
	ショートステイ	必要な時に実施 年間回数6回	まなびやもも	2名	13名
余暇支援事業	スポーツ、レクリエーション、美術館、ものづくり体験、おかしづくりなど	毎月1回開催 年間回数14回	まなびやもも、高松市美術館、太田南コミュニティセンター、体験施設	2～3名	138名

相談支援事業	子ども若者やそのご家族との個別面談を対面や電話・LINE相談などで実施。実態と希望に応じて適切な医療や福祉とつながるための伴走支援。	必要な時に実施 年間回数 220 回	まなび やもも ご自宅 (訪問) 病院・ 市役 所・福 祉事業 所(同 行)	2名	220名
--------	--	-----------------------	---	----	------

【事業について】

・不登校や不登校を経験した中高生、若年無業の若者を対象とした学習会では、それぞれの目標に向けた学習と他者との関係構築を目的として実施しました。高校中退から専門学校への進学、定時制高校への受験を目指す若者もいました。大学生・社会人スタッフや利用者同士のつながりが、学習意欲の低下を防いだり、前むきに将来について考えたり相談したりする雰囲気醸成し、学習意欲の向上や高校中退予防にも効果を発揮しました。

・こどもたち発案の夏祭りを開催しました。出し物や食事の内容もこどもたちが考え、飾り付けや遊び道具づくり、やきそばなどの調理を担いました。当日は利用者やそのご家族、地域のこどもたちや高齢者の方などたくさんの方に来場いただき「とても疲れたけどやってみてよかった！」という感想が出ました。これを期にクリスマス会なども子どもたちが主体となり企画や準備に取り組む機会が増えました。

・地域の秋祭りに出展しパネル展示をおこないました。こどもたちが作成した「ももの説明地図」や日々の活動の様子を伝える掲示物、創作物を展示しました。準備段階から、地域の方々がよく話しかけてくださり、社会参画への一歩となりました。

・キャリア教育ではももカレッジと文化芸術ゼミを開催しました。ゲスト講師にウェブデザイナーやイラストレーターをしている方や、不登校対策委員としてもご活動されている方などをお招きし、少人数での対話の場をともにつくりました。ゼミでは定期的に集まって近況報告をしたり、最近作った作品を持ち寄り見せ合ったりして大学のゼミのような内容に取り組みました。各自がそれぞれどんなことに興味を持ち、小さな研究を進めているかを共有することや身近なロールモデルが増えることで将来に対する前向きな希望を持つ

ことにつながりました。また、進路に関する相談をすることのハードルも下がりました。

・余暇支援活動では、普段自宅にいて体を動かしたり、家族以外と外出したりする機会が少ない方々に向けて、リフレッシュやストレス緩和を目的としました。スポーツや美術館訪問などの課外活動を実施しました。余暇の過ごし方や楽しみ方がストレスケアやセルフマネジメントにも大きく関わることを、体験活動の経験が前向きな気持ちや将来に対する意欲にもつながることを改めて実感しました。

・相談実施件数は過去最多の 220 件となりました。なかでも非常に厳しい状況で相談につながってくれた若者たちが増加傾向にあります。様々な理由から親にたよることができず、経済的にも精神的にも、身体的にも困窮している状態でどうにか相談にきてくれた状況があります。一人ひとり丁寧に面談を実施しながら、適切な医療や福祉につながるができるよう伴走支援をおこないました。ヤングケアラーやひとり親家庭の子どもたち、病気や障害があるが支援制度の対象になりにくい子どもたち、生活が苦しく病院を受診することができないまま冬を過ごす若者。医療機関への受診にかかる費用を一部ご寄付で補わせていただき、無事に診察、福祉制度の利用につながる事ができた若者もいます。また、オーバードーズなどの自傷行為がだんだんひどくなっているにも関わらず、家族にも友達にも言えずに悩んでいる若者からの相談もあります。高校生世代になると支援体制が少なくなり、もし退学や転学をおこなう場合、先生やスクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーなどとの関係性も途切れてしまいます。新しい環境で新たな人間関係を構築していく間にも、気軽にふらっと立ち寄ることができる安心できる場や話せる人との信頼関係が重要だと痛感し、夜の時間帯の居場所や居場所の開催回数を増やすなどの工夫をしました。

【2022 年度の採択・助成実績など】

2022 年 4 月～2022 年 3 月：子供の未来応援国民運動推進事務局独立行政法人福祉医療機構 NPO リソースセンター

2022 年 5 月～2025 年 3 月：認定特定非営利活動法人カタリバ・特定非営利活動法人 ETIC.

2022 年 8 月～2023 年 1 月：「赤い羽根子どもと家族の緊急支援全国キャンペーン」助成

【メディア掲載・登壇など】

2022年6月：香川コミュニティソーシャルワーク実践研究会 登壇

2022年8月31日：NHK 高松



2022年10月13日（読売新聞）



2022年12月3日（四国新聞）



2023年1月29日（朝日新聞）



2023年3月28日（KSB 瀬戸内海放）

年度替わりは“子どもの心”にも負担 専門家ら「周囲が寄り添う大切さ」訴える 香川

2023/3/28 19:22 #香川 #社会 #子ども・子育て



年度替わりは“子どもの心”にも負担 専門家ら「周囲が寄り添う大切さ」訴える 香川

【活動写真】





